

地学協働

04

2023年01月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

1 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰

このたび、文部科学省から「令和4年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰」の取組を決定したとの連絡がありましたので、お知らせいたします。

本表彰は、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進により、学校運営の改善・強化のみならず、学校を核とした地域づくりにも効果を上げている取組のうち、他の模範と認められるものに対して表彰するもので、平成23年度より実施し、今回で11回目となります。表彰される取組数は、全国で112、道内は、下記の3つの取組となりました。表彰式は、2月3日（金）に、文部科学省東館第一講堂において実施の予定です。

関係者の皆様、大変おめでとうございます。

1 厚南地区学校運営協議会あつまるねっと（厚真町）〔厚真小学校・厚南中学校〕

● 「ふるさと教育」の推進～小中一貫教育で目指す「厚真の未来を語る子」の育成～

【効果的な運営の工夫】学校運営協議会設置当初は、学校からの報告事項がメインであり、学校と地域の活発的な意見交換が少なく、委員が当事者意識をもって会に参加することが少なかった。そのため、令和3年度以降、委員を少人数グループに分けてブレインストーミングなど、付箋を用いたワークショップを導入することで、活発な意見交換の場を目指した。また、学校運営協議会の中で出された意見を具体的に実現するために、委員が中心となって町民を巻き込み、学校と地域住民が連携・協働した新たな教育活動の創出を行っている。

2 北海道名寄高等学校地域学校協働活動（北海道）〔名寄高等学校〕

● 学校の魅力化に向けた地域と連携した学校教育活動の充実

【効果的な運営の工夫】推進委員会は、名寄市内の名寄高等学校・名寄産業高等学校と連携し、両高等学校の統合にあたり、地域から魅力ある高等学校として認められるよう、地域での魅力の検討及び情報発信することを目的としている。また、推進委員会のなかには名寄市内高等学校魅力化コーディネーターが配置され、両高等学校の課題や統合後の魅力ある高校の在り方について調査・研究を行うとともに、高等学校統合に関する課題解決や魅力化に向け、関係機関との連絡調整等を積極的に取り組んでいる。

3 訓子府町学校運営協議会・訓子府町地域学校協働本部（訓子府町）〔訓子府小学校・居武士小学校・訓子府中学校〕

● ふるさと教育「くんねっぷ学」～訓子府に愛着を持ち、訓子府の未来を担える子を育てる取組～

【効果的な運営の工夫】訓子府町認定こども園、訓子府小学校、居武士小学校、訓子府中学校で1つの学校運営協議会を設置することにより、訓子府町の目指す子どもの姿に向けて町全体で目標や課題を共有し、認定こども園から小中学校までつながりのある教育活動を推進している。また、園・学校ごとに部会を設置し、具体的な教育活動や地域との協働活動に関する協議を行っている。令和2年からは、訓子府高校との連携により「訓子府高校部会」も加え、認定こども園から高等学校までを見通した教育活動を学校と地域の協働で取り組んでいる。

2 放課後活動推進協議会（第2回）の報告

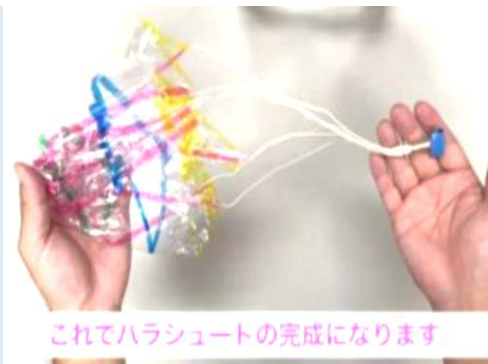
道教委では、放課後子供教室や放課後児童クラブなど「新・放課後子ども総合プラン」等の事業を推進する方々を対象に、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた子どもへの活動支援の在り方を含めた専門的な講義や演習等を行う「放課後活動推進協議会」を全道4つのブロックで実施しました。

1 道央ブロック【10月18日実施】

- 演習：「体験活動の意義と冬期間にできる活動」
- 講師：國學院大學人間開発学部子ども支援学科

准教授 青木 康太郎 氏

子どもたちが豊かな体験活動を行うことができるよう、指導者が体験活動の意義について理解を深め、冬期間にできる活動について学ぶとともに、身近にある材料で作ることができるおもちゃ作りとして、ビニール袋を用いたパラシュートの作成方法を学びました。



これでハラシュートの完成になります

【講師による説明の様子】

2 道南ブロック【11月9日実施】

- 協議：「特別な支援を必要とする子どもの対応について」

過去のアンケート等において参加者の課題意識の高かった、「特別な支援を必要とする子どもの対応」について、3つのテーマを設定し、グループごとに協議しました。



【オンライン参加の様子】

3 道北ブロック【10月25日実施】

- 演習：健康・スポーツ・運動・学力の土台「子どもカラダ遊び」
- 講師：健幸サポート happy moon 代表 門間 奈月 氏

コロナ禍により、体を動かす運動や遊びに取り組む機会が減っている中、講師によるコンディショニングトレーニングや五感（視覚、聴覚、触覚など）を知る運動等の実演を交えながら、体づくり運動や身近にある用具を使った遊びなどをとおして子どもの健康をサポートする活動支援の在り方について学びました。



【身近にある用具を使った遊びの演習】

4 道東ブロック【10月20日実施】

- 講義：「特別な支援を必要とする子どもへの支援の在り方」
- 講師：釧路短期大学 専任講師 小林 麻如 氏

特別な支援を必要とする子どもへの支援のためには、指導者が子どもの発達や障がいの傾向について正しく理解することが重要であることから、行動のコントロールが苦手な子どもや自閉傾向にある子どもへの支援方法について学びました。



【講師による説明の様子】

それぞれのブロックでは、上記の演習・協議・講義に加え、参加者の情報交流の時間も設けられ、「子どもにとって、体験することがいかに大切かを改めて実感した。」「質の高い活動内容を提案できるよう、研修に多く参加して学んでいきたい。」などといった声が寄せられました。

3 地域と学校の連携推進協議会（道央）の報告

道教委は、「コミュニティ・スクール(CS)」の仕組みを活用し、地域と学校とが相互に連携・協働しながら一体となって「地域学校協働活動」を充実させる方法等についての理解を深めるため、「地域と学校の連携推進協議会」を全道4つのブロックで実施しました。

今回は、令和4年10月31日に道央ブロックで実施した内容を紹介します。

■ 実践発表



【伊藤主任主事】

「滝川市におけるCSの取組」について

滝川市教育委員会教育部教育総務課教育総務係主任主事 伊藤 崇 氏

滝川市では、地域コーディネーターを教育委員会に2名配置しており、地域コーディネーターが中学校区ごとに設置された学校運営協議会に参加することで、市内の各学校運営協議会の情報が集約され、他の学校運営協議会や地域への情報提供が可能となっていることなど、地域コーディネーターの情報共有に関わる具体的な取組について発表していただきました。



【守田教頭】

「岩宇地区4町村と連携したCSの設立」に向けて

北海道岩内高等学校教頭 守田 英樹 氏

令和4年4月にCSを導入した岩内高等学校では、校区が広域であるため、岩宇地区4町村（共和町、岩内町、泊村、神恵内村）のPTA支部長を委員とするなど取組に偏りが生じないように工夫するとともに、今後、社会教育関係団体との連携をはじめ、各自治体と学校の協力体制を一層強化する取組を始めることなど、具体的な実践について発表していただきました。



【仁木学校運営協議会委員】

「大人の本気と地域の絆～“子どもは地域の宝”子どもの夢や未来をみんなで支える～」

北広島市西部中学校区学校運営協議会委員 仁木 裕香 氏

北広島市西部中学校区学校運営協議会では、授業補助や放課後学習のサポートなど学校の教育活動に地域住民が積極的に参画するとともに、CS防災訓練等、児童生徒と地域住民がともに参加し、地域での役割について考える機会を設定したことにより、児童生徒の自主性や主体性が育まれ、自尊感情が高まるなどの成果が見られたことなど、具体的な事例について発表していただきました。

■ 情報交流

CS未導入または導入後3年未満の学校関係者のグループでは、「推進体制の整備」「課題となっていること」などについて協議を行いました。CS導入後3年以上の学校関係者のグループでは、「CS導入による学校・家庭・地域の変容」「これまでの成果と充実に向けた課題」などについて協議を行いました。

情報交流をとおして、CSの効果的な導入と取組の充実に向けた具体的なアイデアを参加者同士で共有していただきました。

○●○子どもの読書活動推進コーナー○●○

社会教育課地学協働推進係では、地学協働の推進とともに、子どもの読書活動の推進に関することについても担当しています。今号では、国の「第4次『子供の読書活動の推進に関する基本的な計画』」の改定に向けた有識者会議による「論点まとめ」について御紹介します。

令和4年度子供の読書推進に関する有識者会議「論点まとめ」概要

文部科学省では、昨年（令和4年）6月から11月までの間、標記会議を6回開催し、12月末に子供の読書活動の更なる推進方策について、論点をまとめました。

【文科省HP「論点まとめ」】https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/040/gaiyou/1402513_00001.htm

1 近年における子供の読書活動に関する状況等

- 図書館の児童用図書の出借冊数、全校一斉の読書活動を行う学校の割合が減少
- コロナ禍の影響で、各学校の臨時休業、図書館の臨時休館等により、図書へのアクセスがしにくい状況
- 小学生から高校生までの子供の不読率は、令和元年度から令和3年度、全国一斉臨時休業等を経て上昇

2 基本方針

急激に変化する時代において、必要とされる資質・能力を育む上で、読解力や想像力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠であり、全ての子供たちが読書活動の恩恵を受けられるよう、社会全体で子供の読書活動を推進

- 1 不読率の低減（就学前からの読み聞かせ等の促進、学校図書館のオリエンテーション等の充実、不読率が高い状態の続く高校生：探究的な学習活動等での図書館等の活用促進、大人を含めた読書計画の策定等）
- 2 多様な子供たちの読書機会の確保（障害のある子供、日本語指導を必要とする子供等）
- 3 デジタル社会に対応した読書環境の整備（社会のデジタル化、GIGAスクール構想等の進展等を踏まえ言語能力や情報活用能力を育む、図書館のDXを進める）
- 4 子供の視点に立った読書活動の推進（子供の意見聴取の機会を確保し、子供の主体的な取組に反映）

3 子供の読書活動の推進体制等

- 国及び地方公共団体は、子供の読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館、その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制整備に努める
- 市町村は、子供の読書活動の推進に関する施策についての計画策定に努める

上位計画の中に位置づけることも可能に！
（令和4年12月28日付け
文部科学省事務連絡）

4 子供の読書活動の推進方策（主のなものを抜粋）

図書館のボランティア登録制度の充実

- | | |
|--------------------------------|--|
| ① 地域（図書館） | ② 学校等 |
| ● アクセシブルな電子書籍等の整備・提供 | ● 図書館、ボランティア等との連携 |
| ● 多言語・やさしい日本語による利用案内 | ● 「学校図書館図書整備等5か年計画」に基づく整備推進 |
| ● 地域の子供が親しみやすい講座、体験活動等に関連付けた取組 | ● 学校図書館情報のデータベース化、一人1台端末の活用（学校図書館システム等のリンク等） |
| ● 子供の要望を取り入れた資料・環境整備 | ● 図書委員等の子供の学校図書館の運営への主体的な参画 |

「北海道子どもの読書活動推進計画」におきましても、本有識者会議の議論等を踏まえ、現在、改訂を進めています。

題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

（公益財団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>